

2 SCENE

パーミヤンに向かう車の中では、小さなブレーキ音さえ爆発音に聞こえ、何度も震え上がりました。極度の緊張が続く中で思ったのは、1000万個以上もの対人地雷が埋められているこの地で身を守るには、地雷教育がもっと必要だということです。実際、地雷で手足に被害を受けて病院に運ばれていた子どもたちのほとんどが学校に行けない子どもたちでした。地雷があることを知らずに地雷原に足を踏み入れたり、おもちゃでカムフラージュされた爆弾を手にし、被害にあっています。

パーミヤンから車で2時間ほど走ったところにあるシバトゥ村。この地にあるテント小学校を訪ねたとき、教育の大切さを実感する出来事を目にしました。

授業風景を見学していると、少年たちが輪になってパズルをしていて、図工の時間かなと思ったのですが、近づくくと、それは何十種類もの地雷や爆弾などが描かれており、危険性を学んでいたのです。

地雷教育用の紙芝居もありました。血まみれで倒れている人や地雷で足を吹き飛ばされた人が描かれ、地雷が隠されている状況や、見つけたときの対処法、そして触ってしまったらどうなるかを教えていました。平和な国、日本に生まれた私にとってはとてもショッキングな光景でした。でも、この地雷教育が現地では不可欠なのです。

テント学校ではブルーシートの上で地雷教育が行われていた (藤原紀香撮影)



我が身を守るには「教育」しか...

~ Smile Please
世界こども基金 ~

アフガンから帰国後、『自分ができること』を実行に移しました。撮ってきた1500枚の写真をもとに、チャリティー写真展を日本各地で開催。写真展や講演会に来てくれた方々のサポートのおかげでアフガニスタンなどに学校を建設することができました。建物だ

けではなく、先生たちの教育トレーニングなど、地道な教育支援が子どもたちの未来を描く力になると信じています。基金を「Smile Please 藤原紀香世界こども基金」とし、これからはさまざまな環境下で過ごしている世界の子どもの未来のため、素敵な笑顔を増やしていくため、子どもたちの教育支援を中心に活動を行っていきます。詳細は後日公式ホームページにてご案内いたします。



基金でアフガンに建設したアング女子小学校。子どもたちが「大好きな色!」。というスカイブルーに塗られた

次回は12月25日に掲載します。

